

退任教員から皆さまへ 2025年度をもって退任予定の教員から校友の皆さまへメッセージをお届けします。



グローバル・コミュニケーション学部 松本 純一 教授

「東洋学園大学の学生たちへ—そしてすべての大学生へ」

東洋学園にお世話になって30年、これまで私が学生たちに何かにつけて言ってきたことを最後にもう一度繰り返しておきたいと思...

がえない存在であることは確かですが、だからと言って一人である時間を無駄だと思わ...



人間科学部 佐藤 淳一 教授

「テニス部監督、そして教員として 学ぶことの多い18年間でした」

私は2008年にテニス部を指導する監督として本学に着任し、当時の顧問部長の田中...

2015年には人間科学部の教員として、1年生のクラス担任をはじめ講義でも部員以外...

インフォメーション

東洋学園大学同窓会からのお知らせ

一異動調査にご協力をお願いします

同窓会では原則週一卒業生スタッフが出校し、業務を行っています。

本年度も無事会報、異動調査の発送を実施いたしました。異動調査につきましてはお送りした会報に表示されるQR...

お預かりした個人情報、セキュリティ対策に万全を期した上で管理しております。

2026年度は学校法人東洋学園が100周年を迎える記念すべき年となります。母校では様々なイベントが企画されて...

私も同窓会でも情報を積極的に発信していく予定です。多くの皆さまに情報が周知できるよう、これを機に異動調査に是非ともご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先 QRコード 東洋学園大学同窓会室 (原則毎週金曜日開室) 【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3

東洋女子短期大学同窓会からのお知らせ

会員の皆さま、その後、お変わりなくお過ごしでしょうか。

2026年は学園100周年の記念の年で、11月には記念式典が挙行されます。短大同窓会では、短大の歴史を記録した記念動画「時を超えて紡がれる物語2～新制・東洋女子短期大学の時代～」の完成を祝い、作成、編集にご尽力いただいた史料室の永藤 欣久氏とご協力いただいた同窓生に動画収録を終えてのお話を伺うイベントを開催することにしました。先生方

東洋学園大学の教育振興資金へのご協力のお願い

学校法人東洋学園は1926(大正15)年に建学し、在学生のご父母・保証人や、卒業生各位のお力添えを賜り、高く掲げた理想の教育の灯を消すことなく、今日を迎えることができました。そして2026年に創立100周年となりました。

本学は自強不息の建学の精神に基づいて、教育と研究の質を高め、学部の垣根を越えた交流や支援体制を充実させてきました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。新たな教育理念として「自他

を活かしひらく」「社会と世界に向き合う」「支えあい未来をつくる」を掲げ、その実現の為にさまざまな改革を進め、教育環境の整備・充実に努めていく所存でございます。

ご父母・保証人の方々からは学納金をお納めいただき、国からも補助金をいただいておりますが、創立100周年となり、教育内容の充実、修学環境の一層の整備と発展のため、格別のお力添えを切にお願い申し上げます。

学校法人東洋学園 理事長 愛知 太郎

各種証明書の発行について

証明書の申込はオンライン申請、手数料支払はオンライン決済となりました。卒業年度により受取方法が異なります。※初回申請は「新規登録手続き」が必要となります。承認には最長3営業日をいただきます。※個人情報の変更は各同窓会へご連絡ください。

Table with columns: 大学(大学院)卒業生, 証明書の種類, 対象者, 受取方法. Includes rows for 和文, 英文, 短期大学(専攻科)卒業生.

*1) コンビニ発行: 全国のコンビニエンスストアの各店舗内に設置されているマルチコピー機を利用して証明書を受け取りいただけます。

お問い合わせ先 QRコード 教務部 【E-MAIL】online-kyomu@tyg.jp 【HP】https://www.tyg.jp/shomei/

ご寄付に関する詳細はホームページ(右記QRコード)をご確認ください。 https://www.tyg.jp/guide/toyo/bokin.html

東洋学園大学教育振興資金寄付者ご芳名(敬称略・50音順)

(2024年4月～2025年3月までに寄付頂いた方) 法人・団体(3法人・1団体): 愛知株式会社、一般財団法人ユーラシア財団 from Asia、ユニアデックス株式会社、本郷堂岐阜太鼓個人(8名): 青柳 安幸、岩崎 好太郎、打田 美代子、下沢 ユキ、高田 滋夫、林 一枝、村岡 園子、山本 寛之 他に氏名掲載を許された方以外の方の寄付者: 在学生・卒業生等を含む個人(39名)

100th ANNIVERSARY SINCE 1926 東洋学園だより

東洋学園だより第14号 2026年3月1日発行 [発行・編集] 学校法人東洋学園 学生支援課 〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL.03-3811-1072 E-MAIL.koyukai-info@tyg.jp

CONTENTS 100周年によせて～学長・理事長メッセージ～.....1 100周年特設サイト紹介.....2 TOGAKU PBL / 学園祭報告 / [連載] 東洋学園の歴史.....3 退任教員から皆さまへ / インフォメーション.....4

100th ANNIVERSARY SINCE 1926 東洋学園は 2026年11月4日に 100周年を迎えます! 時代に合わせて進化しながら、まもなく100年!

Timeline of milestones: 1917 (大正6年) 前身・明華女子歯科医学講習所開校, 1926 (大正15年) 東洋女子歯科医学専門学校創立, 1950 (昭和25年) 東洋女子短期大学開学, 1992 (平成4年) 東洋学園大学開学, 2026 (令和8年) 東洋学園100周年

来たる100周年によせて 辻中校長・愛知理事長からのメッセージ



東洋学園大学学長 辻中 豊

大正デモクラシーとともに産声を上げた東洋学園(女子歯科医専)は、大戦後に英語教育の短大として再出発、1992年には四年制共学大学に、2010年代に3学部・東京キャンパス体制へ展開し、今年、100周年を迎えます。1926年、1950年、1992年、2016年、そして現在(2027年国際共創学部設置予定)と、いづれも世界と日本の転換点に、自強不息の建学の精神どおり、学園自体がUPGRADEを続けているのです。自強不息の英訳をAIに尋ねてみると、Never stop becomingと答えました。自らが次に進むこと、脱皮することをやめない精神だ、ということですね。何になるか、どこへ進むかは、自分が本当に望むところへ進めばいいのです。東洋学園では、PBL(課題解決型学習)教育、つまり大都市、東京そのものをキャンパスにして、社会と世界に繋がり、互いに手を携えて、一人一人が生き生きできる道を見出せるよう、しっかりと教育を進めています。そうした一人一人の歩みが、次の新しい100年を創り出すことを願っています。



東洋学園大学理事長 愛知 太郎

本学が今年100周年を迎えるという事実は、決して当たり前の結果ではありません。社会の変化や機度への困難の中で、学びの場として存続し続けてきた背景には、常に人の力がありました。とりわけ校友の皆さまの存在は、本学にとって欠かすことのできない支えです。それぞれの時代に学び、巣立ち、社会の第一線で歩みを重ねてこられた姿そのものが、本学の歴史であり価値です。大学は校舎や制度ではなく、そこに関わった人々の記憶と実践によって形づくられてきました。100周年は通過点にすぎません。これまで何を大切にしてきたのかを確かめ、次の世代に何を託すのかを考える節目です。本学は時代が変わっても学びの意味を問い続け、社会に必要とされる大学であり続けようとしています。その姿勢こそが、次の100年を支える基盤になると考えています。今後も本学が社会に必要とされる存在であり続けるために、校友の皆さまと同じ方向を見据え、共に歩んでいきたいと願っています。

お問い合わせ先 学生支援課 校友窓口 TEL 03-3811-1072 受付時間: 平日(月～金) 9:00～17:00 E-MAIL koyukai-info@tyg.jp ホームページ https://tgwb.tyg.jp/fr/koyukai/



東洋学園100年の歴史を 一気見できるサイトが誕生！

100周年特設サイト内の「HISTORY」ページでは、東洋学園の歩みをご紹介します。
懐かしい先生方や同窓生が登場しているかもしれません。ぜひサイトを訪れてみてください。

100周年特設サイトがオープン
東洋学園の歴史から100周年ニュースまで
盛りだくさんのホームページ



https://www.tyg.jp/100th/



100周年特設サイト内で 東洋学園の歴史を公開中！

100周年特設サイトでは、100周年にまつわる最新情報を発信するのはもちろん、「HISTORY」と題した歴史ページもご用意。年表や動画、写真などを通じて本学の歩みを振り返ることができるほか、本学の歴史に関わった方々によるコラム、校友の皆さまによる投稿も閲覧できます。ぜひサイトにアクセスし、100年の歴史をさまざまな角度からお楽しみください。



「HISTORY」ページにはこんなコンテンツが！



東洋学園の100年

学園の歴史を「前史」「東洋女子歯科医学専門学校」「東洋女子短期大学」「東洋学園大学」の4つの時代に分け、年表形式でご紹介。社会のできごとと照らし合わせながら見ると、感慨深さもひとしおです。



画像・映像でみる100年

画像は現在2本を公開中。「旧制・東洋女子歯科医学専門学校の時代」と、「新制・東洋女子短期大学の時代」を閲覧できます。また、画像で各時代の学園祭の紹介も。

「HISTORY」の制作を担当する

100年史編集委員会からのメッセージ

2026年という新しい年を迎えて、早くも時が流れました。まもなく、東洋学園は創立100周年という記念すべき年度を迎えようとしています。

東洋学園大学では、それを記念して在学生と教職員による「100周年記念事業イベント委員会」を立ち上げました。2026年度は、在学生・卒業生・現教職員・元教職員のすべての方を対象とした多彩な記念イベントを企画しています。これらの活動や最新情報は、公式の「100周年特設サイト」で随時発信しています。

建学の精神である「自強不息（じきょうやすまず）」は、「自らたゆまず努力を重ねる」という意味を持ち、創立者・宇田尚が100年前、学生たちに繰り返し説いた言葉です。その精神は、特設サイトのメッセージ「進み続けることをやめない I WILL. I DO.」

および「そのワクワクが、未来を変える。」というスローガンにも息づいています。自らを鼓舞し、挑戦と成長を続けていく姿勢こそ、「自強不息」の現代的な表現といえるでしょう。「100周年特設サイト」は、創立以来受け継がれてきた伝統を礎に、創立者の理念を未来へと受け継ぎ、新たな一歩を踏み出すための情報発信の場でもあります。

その特設サイト内には、「HISTORY」というページが設けられています。大正時代、女性の社会進出を志し歯科医師を目指した東洋女子歯科医学専門学校の学生たち。戦後、英語力と知識を武器に世界へ羽ばたいた東洋女子短期大学の学生たち。そして、平成から令和というダイバーシティとグローバルの時代に、激動する

社会をたくましく歩み続ける東洋学園大学・大学院の学生たち。その歩みを支えてきた教職員、家族、地域社会など、多くの人々の関わりによって、東洋学園の100年は築かれてきました。

「HISTORY」は、創立100周年を機に、学園の歩みをWeb上で振り返り、先人たちの努力と志に敬意を表するとともに、次の100年への飛躍を目指すページです。このページを担当する100年史編集委員会では、皆さまに学園の長い歴史を把握していただくだけでなく、懐かしい思い出やエピソードと再び出会えるような場となることも願っています。この機会に、かつての仲間とつながりを取り戻し、母校の今を見つめて直してみませんか。皆さまからの投稿もお待ちしております。

100周年特設サイトでは 学園の最新情報も発信中！

100周年スローガンが登場

建学の精神「自強不息」の精神を受け継ぐ、100周年のスローガン「I WILL. I DO.」が誕生。学生自らが自分の背中を押し、成長し続けるイメージを言語化しています。特設サイト上には、このスローガンに関する詳しい解説も。



教育理念をアップデート

100周年を機にアップデートされた教育理念は、変化を恐れず、柔軟に考え、行動し、他者と協働しながら、自らの意思で道を切り拓いていく、そんな人に成長してほしいとの願いが込められた内容です。詳しくは特設サイトへ。



皆さまからの投稿を募集中！

東洋学園では100周年を記念し、校友の皆さまからの投稿を募集しています。皆さまの学生時代の思い出を綴った文章（800字前後）や写真をぜひお寄せください。投稿いただいた内容は「みんなの投稿」として100周年特設サイトに掲載させていただきます。テーマや書き方、原稿の送付方法などについては、100周年特設サイト内にある「HISTORY」のページで詳しくご紹介します。

お問い合わせ先 100年史編集委員会
[E-MAIL] 100hensan@ml.tyg.jp

100周年に向けて勢いづく TOGAKU PBLの事例紹介

問いも答えも、自分でつくる。
TOGAKU PBL
PROJECT BASED LEARNING

100周年を機に、本学がますます力を入れていく新しい学びのスタイルが「TOGAKU PBL」。実はすでに全学部で活発に行われており、ここでは2025年度の事例の一部をご紹介します。



こども服譲渡会には一般の方が多数来場。当日は、子育て中の方から課題を聞き取る学習会も同時開催

TOGAKU SHOWCASEを活用したイベント型PBL

TOGAKU PBLとは、「問いも答えも、自分でつくる。」をキーワードにした課題解決型学習のこと。本学ではこの学びを推進しており、PBLの見える化を目的とした「TOGAKU SHOWCASE」も学内に設置。PBL関連の展示・イベントスペースとして活用しています。人間科学部の集中科目「人間社会演習」(種村文孝准教授)の履修生は、このTOGAKU SHOWCASEで「こども服の譲渡会」を開催。文京区や企業と連携しつつ、不用になったこども服の回収や集客、会場設営などのマネジメントを学生自身がを行い、SDGsにも直結する譲渡会を見事成功させました。



1号館1階に常設されたTOGAKU SHOWCASEでは、PBL関連の展示やイベントを実施

フリーマーケットの様子。出店した学生からは「ビジネスの大変さがよくなった」とのコメントも



また、現代経営学部「プロジェクトマネジメント」(野村拓也専任講師)の受講生はTOGAKU SHOWCASEでフ

リーマーケットを開催。企画から商品の制作・仕入れ、ブース装飾、宣伝まで学生自身が行い、スモールビジネスを体験する貴重な機会となりました。

産学連携やフィールドワークを主体としたPBL型の授業も！

TOGAKU PBLの学びのカたちは多岐にわたり、産学連携に取り組んだゼミも。「マーケティングとメディア研究ゼミ」(八塩圭子教授)は、中高生に人気



音楽フェス「マイナビ閃光ライオット2025」を盛り上げるプロジェクトに挑戦した八塩ゼミ



地域とつながるPBLも！

のTOKYO FM「SCHOOL OF LOCK!」と連携し、同番組主催の音楽フェスを盛り上げるプロジェクトに挑戦。フェス当日は会場では来場者向けブースを出展し、ゼミ生が考案したメッセージボードが大反響となりました。

また、異文化を研究する「フィールド文化研究ゼミ」(中村知子専任講師)は、日本最大級のモンゴル文化フェスティバルでフィールドスタディを実施。本場の食や音楽などを体験し、気づきをレポートにまとめた。



モンゴルのさまざまな文化を体験できる「ハワリンバル2025」でのフィールドワークの様子

第33回フェニックス祭～郷郷祭り～

学生企画の100周年記念企画が実現！ 横山和子先生の講演会も

学園祭にて、100周年記念事業イベント委員会の学生委員による「逆転授業」(写真上)を開催。学生が先生となり、教職員に授業を行うユニークな内容でした。

また、学園祭の期間中、元教授の横山和子先生による講演会(写真下)も実施。現役時代の思い出や現在の活動について講演いただき、同窓生も聴講に訪れました。



東洋学園の歴史 第11回 奈良と東洋学園栃木寮

複数年に亘る奈良女子大学での研究会の集大成として第126回日本医学史学会学術大会(テーマ「医療とジェンダーの歴史」)を2025年11月末に同大学で開催。筆者は「日本近代の女性医療従事者たち」シンポジストとして東洋女子歯科医学専門学校を含む女性歯科医師の養成史を報告しました。



奈良女子大学記念館は修復工事中(11/30)

その奈良県最南部、吉野郡十津川村に県立十津川高等学校があります。同校は1864(元治元)年に孝明天皇の勅命で勅皇の志士である十津川郷士のために設

立された文芸館が源流です。東洋学園創立者宇田尚先生の父、宇田廉平先生が文芸館に赴任したのは1883(明治16)年のことでした。宇田廉平は現在の千葉県館山市出身、江戸で儒学を学び武州金沢藩(現横浜市金沢区など)に仕官して明治維新を迎え、藩の公議人として新政府公議所(集議院)に出仕しました。他藩の同志とともに廃藩置県(中央集権化)に異を唱えて薩長藩閥の追及を受け、旧藩野州領(栃木県鹿沼市上永野)に10年余り身を隠しました。その住居に詩経「衛風」から製濁書屋の名を与え、これが東洋学園栃木寮の原形となります。

宇田廉平は1888年に東京の第一高等中学校(後に第一高等学校、東京大学教養学部)倫理学教授となり91年から陸軍幼年学校兼務、97年に退官するまで国家・国軍を担うエリートに質実剛健の儒教的武士道を説きました。

宇田尚は1881年に東京で生まれ、奈良と栃木で育ちました。長じて日露戦争従軍中、栃木宇田家は男子の不在で指定校となり28年に理事長、30年に校長となります。同年、宇田尚は廉平没後25周年を期して製濁書屋を拡張改築し、究道者の研鑽の場「製濁学寮」に改め、首相経験者をはじめ宇田廉平の遺徳を慕う一高OBらを製濁学寮賛助会として組織しました。教育・言論界にデビューする宇田尚の戦略的イベントであり、大きな成功を収めました。



(左)宇田廉平(うだれんべい/節之助/正房 1840～1906)
(右)創立者・宇田尚(うだひさし 1881～1968)

大臣指定を巡って紛糾していた明華女子歯科医学専門学校の経営を託されます。1926(大正15)年に「東洋」を名に冠して指定校となり28年に理事長、30年に校長となります。同年、宇田尚は廉平没後25周年を期して製濁書屋を拡張改築し、究道者の研鑽の場「製濁学寮」に改め、首相経験者をはじめ宇田廉平の遺徳を慕う一高OBらを製濁学寮賛助会として組織しました。教育・言論界にデビューする宇田尚の戦略的イベントであり、大きな成功を収めました。



往時の面影を留める東洋学園栃木寮(製濁学寮…はんかんがくりょう)